国衙・郡衙・古寺跡等
範囲確認調査概要報告書　Ⅲ

1994・3

宮崎県教育委員会

序

埋蔵文化財の保護・活用につきましては日頃から深いご理解をいただき厚くお礼申し上げます。

さて古代における地方政治の中心的役割を果たした政庁跡（国衙・郡衙）等は本県においては国分寺を除いてその位置が明確にされていませんでしたが、宮崎県教育委員会では昭和63年度から平成２年度の３か年、国庫補助を受けて国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査を実施しました。その結果、西都市大字妻、同右松周辺の稚児殿池と都萬神社にはさまれた寺崎一帯が可能性の高い地域としてとらえられるようになり、また、国分寺跡周辺の確認調査でも建物跡を検出するなどかなりの成果を得ることができました。

そこで平成３年度から５か年計画で引き続き国衙・郡衙・古寺跡等の範囲確認調査を実施することになりました。今年度はその３年目として寺崎遺跡の２次調査を実施し、建物の一部が検出されるなど大きな成果を得ることができました。

本書は、今年度行いました確認調査の成果の概要をまとめたものです。今後の調査研究の基礎資料として各方面でご活用いただくとともに、保護啓発のための一役となることを期待します。

平成６年３月

宮崎県教育委員会

教育長　高　山　義　孝

例　　言

1．本書は、宮崎県教育委員会が国庫補助を受けて、平成３年度から平成７年度の５か年に実施する国衙・郡衙・古寺跡等の範囲確認調査の平成５年度の調査概要報告書である。

2．５年度の確認調査は県文化課埋蔵文化財第二係主査永友良典が担当した。調査区は西都市大字右松字刎田2801ほか１か所を対象に、平成６年２月７日から３月25日の期間実施した。

3．本書の執筆、編集は永友が担当した。

4．調査にあたっては、調査指導委員会の委員や特別調査員の先生方にご指導いただいた。また、西都市教育委員会をはじめ、県総合博物館、同西都原資料館にはいろいろご協力いただき、記して感謝する次第である。

5．確認調査で出土した遺物は、県総合博物館埋蔵文化財センターにおいて、整理・保管している。

目　　次

第１章　はじめに……1

　第１節　調査の経緯と組織……1

　第２節　調査の概要……6

第２章　調査の結果……7

　第１節　寺崎遺跡２次調査……7

第３章　まとめ……10

第１章　はじめに

第１節　調査の経緯と組織

調査の経緯

古代日向における国衙郡衙古寺跡等に関する資料としては、国防の推定地が地理学の研究から西都市と佐土原町下田島の大光寺周辺（推定地Ａ）に説があるだけで考古学的資料は皆無である。このうち、西都市内の推定地は西都市三宅の印鑰神社北側（推定地Ｂ）、西都原台地と沖積地との間に広がる中間台地上の寺崎から都万神社一帯（推定地Ｄ）、沖積地の市街地一帯の妻から刎田周辺（推定地Ｄ）、とその南の右松周辺（推定地Ｃ）である。また、郡衙・駅跡等についての資料は推定地および考古学的資料ともに皆無である。

さらに、国分寺については昭和23年と36年に西都市三宅の国府推定地の北で日向国分寺跡の発掘調査がおこなわれており、唯一、所在地の明確な遺跡である。また、国分尼寺については県立妻高等学校内で校舎建設の際に布目瓦等の遺物が多量に出土していることから国分尼寺の推定地とされている。

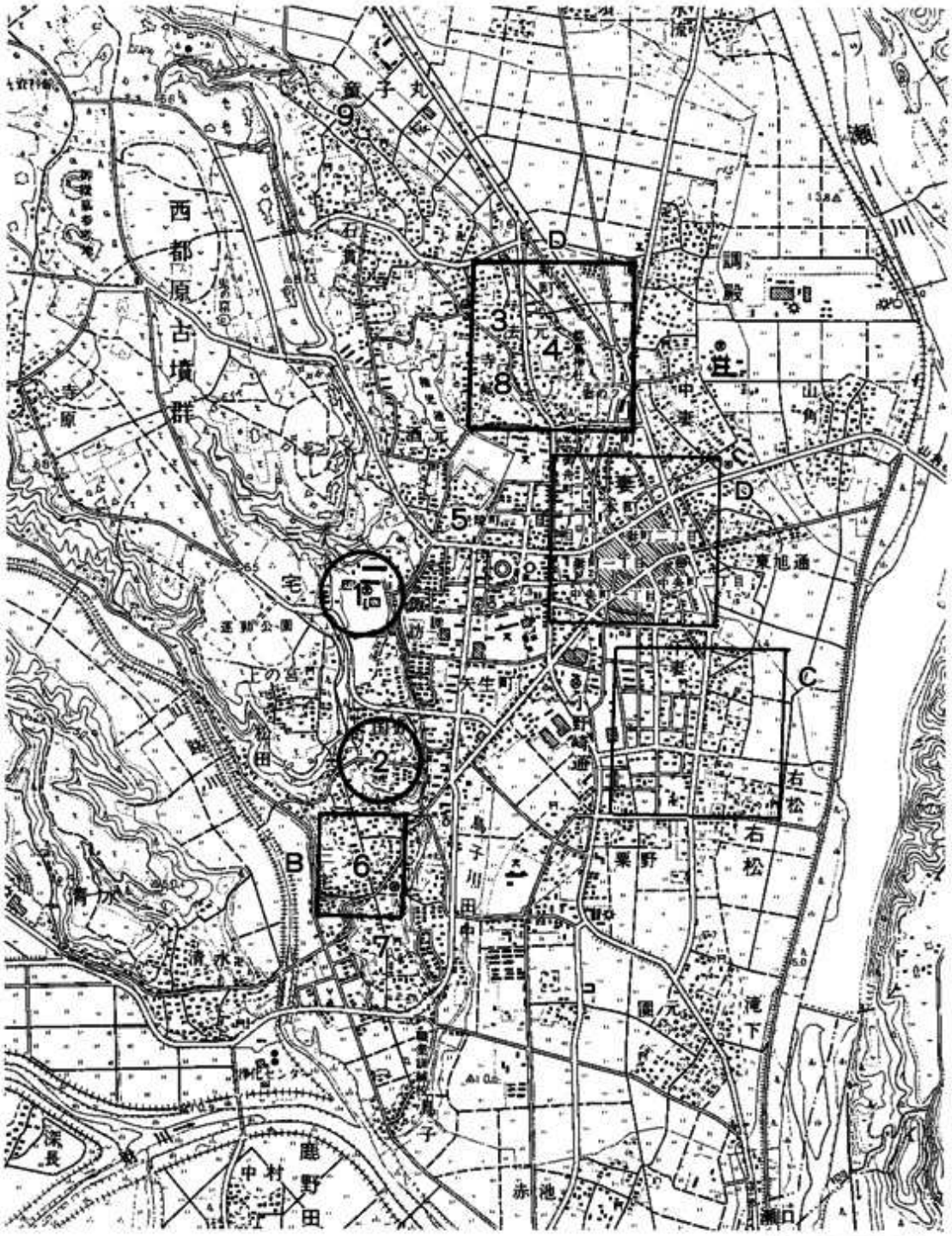
また、県内における国衙郡衙古寺跡等の所在地の目安となる奈良・平安時代の布目瓦の散布地は上記の箇所も含めて西都市６か所、佐土原町３か所、宮崎市２か所、えびの市１か所、延岡市１か所の13か所が確認されている。

以上のように、本県における古代の国衙郡衙古寺跡等の遺跡の調査は、日向国分寺跡以外には行われておらずその解明が立ち遅れていた。しかも、国分寺跡を含めた国府推定地および県内の布目瓦出土地はいずれも市街地にあり、周辺は近年の都市化の進行にあわせて滅失の恐れがでてきている。

そこで、宮崎県教育委員会では、これら古代の重要遺跡について早急にその所在地と範囲を明確にし、遺跡保護のための基礎資料を作成する必要があることから昭和63年度から３か年計画で国庫補助を受けて国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査を実施した。

遺跡詳細分布調査では県内の西都市をはじめとする布目瓦出土地や佐土原町を中心とする瓦窯跡の分布調査や試掘調査を実施した。その結果、国府所在地として可能性の高い西都市の推定地については中間台地に所在する推定地Ｂ（西都市三宅）やＤ（西都市妻～刎田）からは分布調査や確認調査において軒丸瓦や布目瓦が確認され、特に、平成２年度の寺崎遺跡の確認調査では方形プランの大型の柱穴が検出されるなど有力な候補地として浮び上がってきた。一方、沖積地に広がる推定地Ｃ（西都市右松）および推定地Ｄ（西都市妻～刎田）は立地的に困難であり推定地から除外しても問題はないと思われる。

また、関連資料として、平成元年度の国分寺跡周辺の確認調査では「僧坊」と推定される伽



（1：25,000 妻）

第1図　日向国府推定地および周辺遺跡位置図

B三宅　C右松　D妻～鹿田　1.国分尼寺推定地　2.国分寺跡
3.法元遺跡　4.上妻遺跡　5.酒元遺跡　6.上尾筋遺跡　7.下尾筋遺跡　8.寺崎遺跡　9.童子丸遺跡

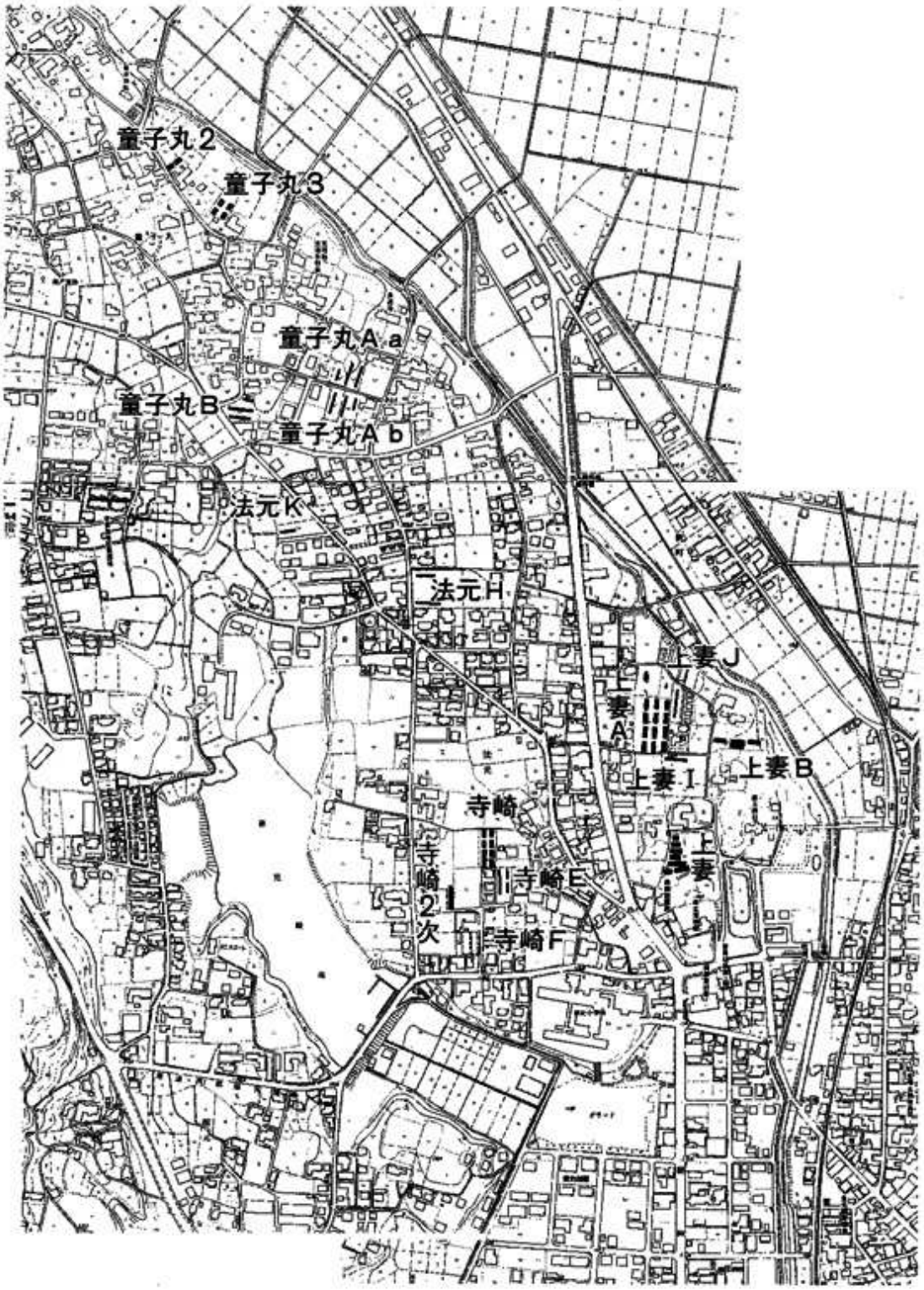
藍配置の一部が明らかにされ、さらに、佐土原町内の窯跡の分布調査では数か所で瓦や須恵器の窯跡が確認されたが、このうち、町教育委員会がおこなった下村窯跡の試掘調査の結果国分寺跡や寺崎遺跡出土の凸面横縄目叩きの平瓦と須恵器の生産窯の可能性が高まった。

これら遺跡詳細分布調査の結果をふまえ、県教育委員会では平成3年度から5か年計画で国庫補助を受けて推定地Dを中心とした国衙郡衙古寺跡等の範囲確認調査を実施することとした。

過去2か年の調査では、推定地Dの東端にあたる都万神社周辺の上妻遺跡の確認調査を中心におこない寺崎地区ほど多量ではないが布目瓦等が出土している。その中には豊前金剛宝戒寺（大分市）と同笵の可能性の強い白鳳様式の百済系瓦（単弁八葉蓮華文軒丸瓦）が見られ初期の国衙あるいは寺院が想定される。

表：国衙郡衙古寺跡等関連調査一覧（昭和63年度～平成5年度）

年次	調査	内容	備考・関連事項
昭63	遺跡詳細分布調査	県内分布調査 国分尼寺跡確認調査	
平元		分布調査（西都市） 国分寺跡確認調査 上尾筋遺跡確認調査	下村窯跡試掘調査（佐土原町教育委員会） 遺跡所在確認調査（西都市教育委員会） 上尾筋遺跡・下尾筋遺跡
平2		分布調査(佐土原町) 寺崎遺跡	遺跡所在確認調査（西都市教育委員会） 上妻I・J、童子丸Aa・Ab・B、法元H・K、寺崎E・F
平3	範囲確認調査	童子丸遺跡第1地点 童子丸遺跡第2地点 上妻遺跡	
平4		上妻遺跡A地点 上妻遺跡B地点	
平5		寺崎遺跡2次	



第２図　国衙・郡衙・古寺跡等の関連調査トレンチ配置図（１：7,500）

調査の組織

平成５年度の調査体制は下記のとおりである。

調査主体

宮崎県教育委員会

教育長	高山義孝
教育次長	八木　洋
教育次長	中田　忠
文化課長	甲斐教雄
課長補佐	田中雅文
庶務係長	税田輝彦
主　査	宮越　尊
埋蔵文化財第二係長	面高哲郎
関係市町村教育委員会	

指導監督

福岡大学人文学部教授	小田富士雄
奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	
研究指導部集落遺跡研究室長	山中敏史
宮崎県文化財保護審議会会長	野口逸三郎
西都市西都原古墳研究所所長	日高正晴
宮崎県県史編さん室室長	永井哲雄
宮崎県立宮崎農業高等学校教諭	阿萬美水

調査員

県文化課埋蔵文化財第二係主査	永友良典
県史編さん室主任主事	池田伸二
県総合博物館主査	近藤　協
県総合博物館埋蔵文化財センター主査	長津宗重
西都市教育委員会社会教育課主事	蓑方政幾
佐土原町教育委員会社会教育課主事	木村明史

特別調査員

福岡市教育委員会埋蔵文化財課第２係長	山崎純男
鹿児島ラサール高等学校教諭	永山修一

第２節　調査の概要

平成５年度は範囲確認調査の３年目に当たる。

今年度は、現地調査を昨年度の調査指導委員会で指摘があった都萬神社と稚児殿池に挟まれた寺崎地区に絞っておこなう計画で６月から７月にかけて作物調査を実施し準備を進めた。しかし、諸般の事情で調査区の選定に手間取り、結果的には調査区を決定し同意が得られたのは年明けの１月であった。

今年度の調査区は、稚児殿池の東を池に沿って南北に延びる市道の東側に広がる茶畑の一区画である。稚児殿池～妻北小学校～都萬神社の区域のなかでは中心より南西角に近いところに位置する。

この区域は平成２年度に県教育委員会が詳細分布調査で確認調査を行った寺崎遺跡（１次）に隣接する。寺崎遺跡１次調査区では方形プランの柱穴が検出され東西方向に主軸を持つ建物跡の一部も確認された。出土品のなかにも７世紀末～８世紀後半の須恵器、畿内地方の搬入土器と思われるら施状の暗文を施した土師器坏蓋・身、転用硯、凸面縄目叩きの平瓦など注目する遺物がみられる。

調査区は東西方向の幅約８ｍ、南北方向の奥行約10ｍと80㎡程度の狭い面積の調査区域である。現況は茶畑だが、茶の木はかなりの古木で手入れなど行われていない茶畑であることから作業は茶木の伐採・抜根から始めた。調査は5ｍ×9.5ｍのグリッドを南北に（ａ区、ｂ区）に設定して調査した。調査中に北に隣接する土地（荒れ地）の地主の承諾も得られたため調査区を北に拡張（ｃ～ｅ区）し４ｍ×10ｍのトレンチを設けた。

調査の結果、南区・北区いずれも主軸を南北方向に持つ近世の溝状遺構や幅約20㎝の帯状に延びる硬化面が検出された。また、南区では古代の遺構としては検出された大型で方形プランの柱穴や普通の大きさの柱穴群が見られる。検出された大型の柱穴の組合せから東西方向に延びる１間の細長の建物（あるいは回廊）の一部も検出された。また、建物跡の柱穴と切り合う柵列（または、塀）の円形の柱穴も見られた。また、北区では南北方向に主軸を持つ建物跡が検出されている。

調査は平成６年２月７日に開始し、３月25日に終了するまでの延べ調査日数約20日をついやした。　調査指導委員会は平成６年３月３日に開催し、調査の方法および成果の評価について指導・助言を受けた。また、平成５年10月４日～５日に特別調査員として山崎純男氏に調査の方法等についての指導、平成６年３月25日～26日に特別調査員として永山修一氏に文献をふまえた指導を頂いた。

第２章　調査の結果

第１節　寺崎遺跡２次調査

調査区の基本層序は平成２年度調査の寺崎遺跡（１次調査）と同様、表土（Ⅰ層）、暗褐色土層（Ⅱ層）、黒色土層（Ⅲ層）、アカホヤ火山灰層（Ⅳ層）、硬質の明褐色土層（Ⅴ層）である。

遺構の検出はⅣ層上面を基本としたが、ｃ区～ｅ区ではⅣ層は見られずⅤ層上面での検出であった。その結果、ａ区～ｂ区で40本近く、ｃ区～ｅ区で40本を越える柱穴が確認された。また、溝状遺構も３条ほど検出された。遺物はⅠ層～Ⅱ層を中心に出土している。

ａ区～ｂ区

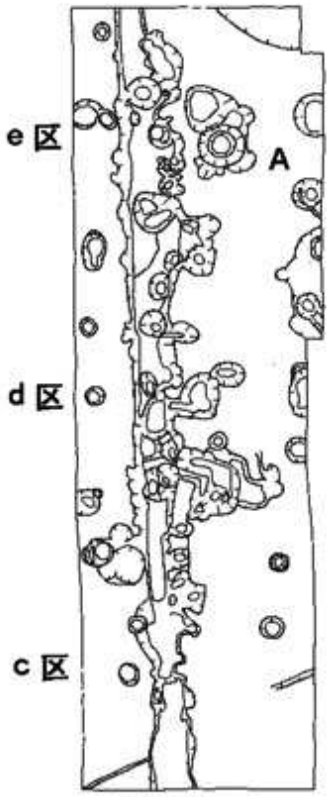
ａ区～ｂ区では大型の柱穴が検出された。トレンチ北壁付近SHIとSH2、その南約３ｍにはSH3・SH4・SH5、SH6・SH7・SH8の３本が切り合った状態で２か所、その東の壁際ではSH9が確認できた。SH1は上部が106cm×102cm、床面規模が80cm×64cm、深さ30cm～40cmである。方形プランの柱穴と思われる。SH2は上部で100cm×90cm、床面規模が68cm×76cm、深さ30cm～40cmである。方形プランの柱穴と思われる。SH3～SH5はSH1から南へ300cmのところに３個の柱穴が切り合って所在する。３個の柱穴は方形プランの柱穴が南北方向（SH3・SH4）に２個、円形プランの柱穴（SH5）が北西側のある。SH3は１辺が約80cm、床面の１辺が68cm、深さ30cmを測る。SH4はSH3の北に接し切り合う。床面の１辺が60cm×50cm、深さ30cmを測る。SH5は床面径が約80cmである。SH6～SH8はSH3～SH5の東にあり、SH2からは南へ300cmのところに３個の柱穴が切り合って所在する。SH6は１辺が約88cm、床面の１辺が65cm、深さ40cmを測る。南側の壁には礫が詰め込まれている。SH7はSH6の北に接し切り合う。床面の１辺が60×50cm、深さ35cmを測る。SH8は床面径が約80cmである。SH9はSH7の東約１ｍの所にあり、径約70cm、深さ35cmの円形の柱穴である。また、SH1とSH2の北側のベルト内にも大型の柱穴（SH10・SH11）が確認された。

中央を南北にはしる溝（SE－1）が確認され、南端掘られた方形の落込みに流れ込む。溝は浅く布目瓦近世・近代の遺物が混在して出土している埋土も灰色状を呈している。新しい溝と思われる。　また、溝の東端に沿ってアカホヤ確認面から20cmほどの所で幅10cmほどの硬化面が南北に延びる。この硬化面も新しい時期のものと思われる。

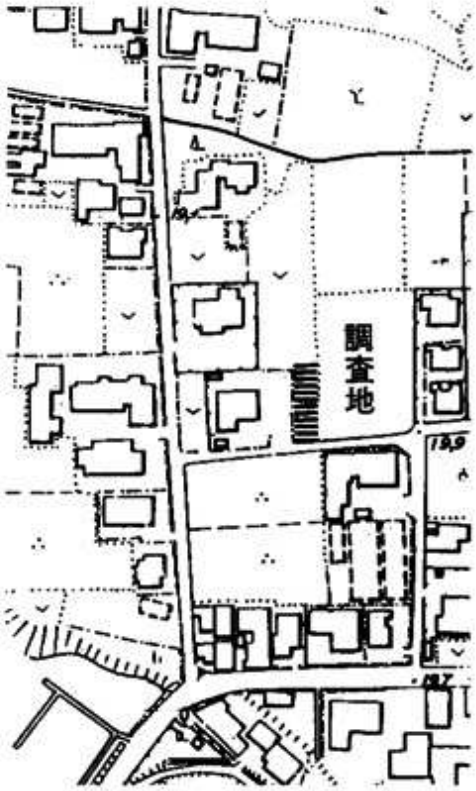
遺物の溝は（SE－1）や南側の落込みを中心に出土したが、布目瓦や須恵器、土師器片に交じって近世や近代の陶磁器片や瓦片も出土している。

ｃ区～ｅ区

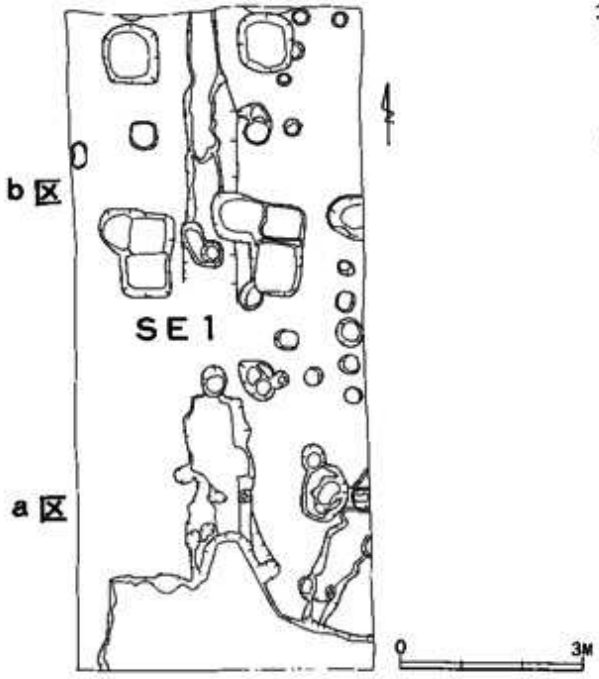
ｃ区～ｅ区でも建物が１～２棟復元可能である。１棟は径80cm前後の大型の円形の柱が４本



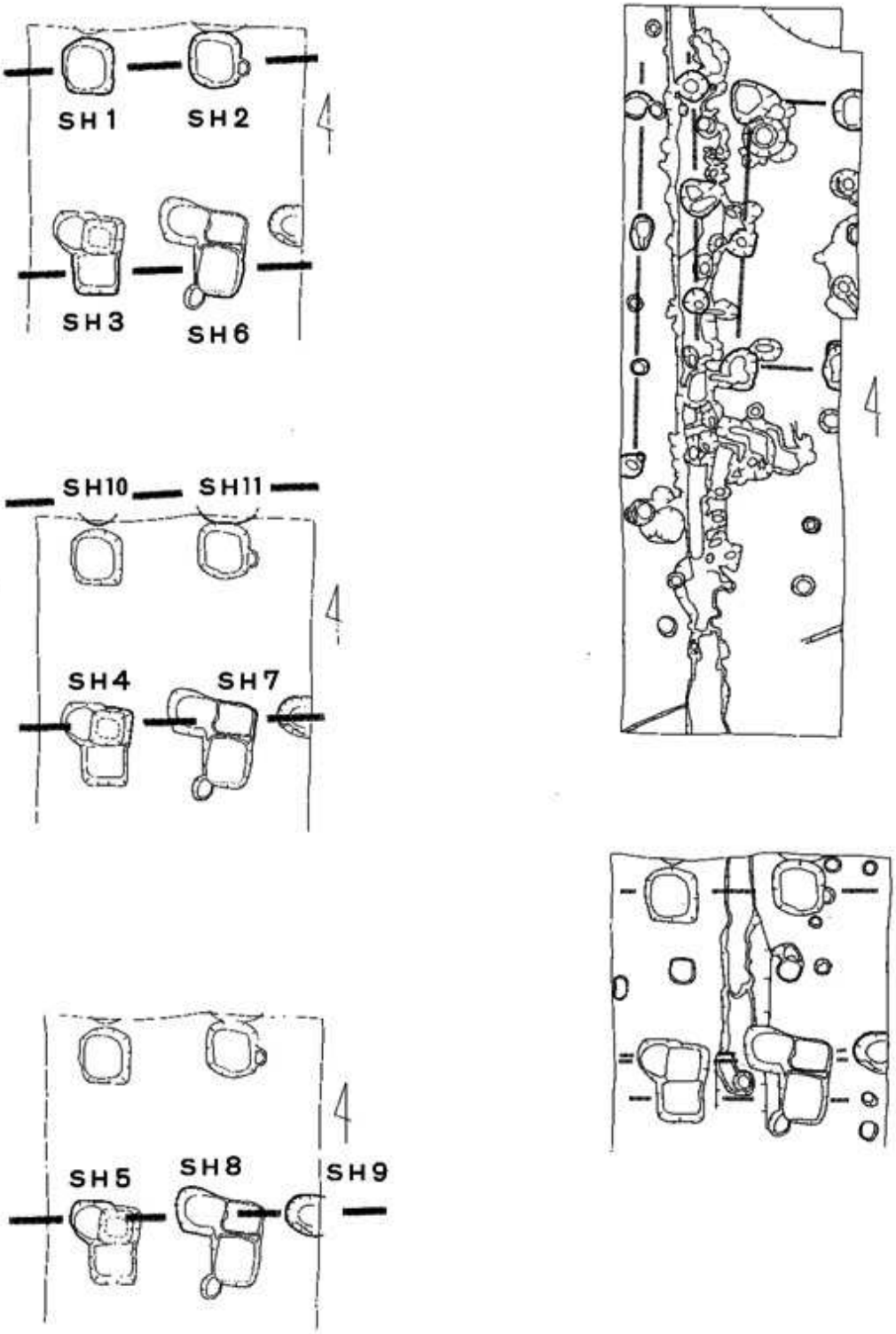
A……土器集中箇所



平成５年度調査箇所（1:2,500）



第３図　寺崎遺跡２次調査区遺構分布図



第4図　建物想定図（1：240）

並ぶ。南北方向の柱間が480cm前後で間に径40cm程の柱が入ると思われる。東西方向の柱間は190cmで東に延びる可能性が強く東西方向に主軸を持つ建物が考えられる。

調査区の西側でも径40cm前後の柱が220cm～260cmの柱間で南北に並ぶ。さらに、幅60cm～80cm、検出面からの深さが20cm程の南北に走る溝（SE−2）の中に径50cm～60cm、深さ20cm程の柱穴が等間隔（200cm）で並ぶ。SE−1とSE−2は主軸方向は同じだがSE−2が西にずれる。

遺物は溝（SE−2）に集中して出土したが、布目瓦や須恵器、土師器片に交じって近世や近代の陶磁器片や瓦片も出土している。しかし、同じSE−2でも南側は床面直上で20cm～30cm大の石や布目瓦、新しい瓦など固まって出土したのに対し、北側では比較的上の段階で遺物の出土を見る。調査区の北側（e区）では比較的遺物の出土が多く特に東側に拡張した箇所ではヘラ切り底の土師器坏、長い脚状の高台付の椀、磐など完形に近い遺物が多量に出土した。また、c区の溝（SE−2）の両側で遺物の集中が見られ東側では須恵器の無頸小壺や土師器の甕の胴部片が固まって出土している。

第３章　まとめ

今回の寺崎遺跡第２次調査区の調査では遺構検出において重要な成果が得られた。調査が終了したばかりで詳細な検討や遺物の観察等行っていないが、ａ区～ｂ区では大型の方形を中心とした柱穴が検出され重要な建物跡が想定される。３本の柱穴が切り合っていることから２度の建替えが想定される。SH−1＝SH−2とSH−3＝SH−6が並び柱間350cmの一間分の細長の建物（回廊？）、SH−9=SH−10とSH−4=SH−7が並び柱間350mの一間の細長の建物（回廊）、SH−5=SH−8=SH−9が並び柱間200cmの棚列（塀？）となる。これらはいずれも主軸を東西方向に持つ。また、ｄ区～ｅ区で検出された柱列まほぼ南北方向および東西方向に並ぶ。

出土遺物の特徴については、布目瓦が縄目叩きの平瓦が多く、基本的には平成２年調査の寺崎遺跡（１次）の出土遺物に類似する。その中で、ｅ区で出土したヘラ切り底の土師器坏、長い脚状の高台付の椀、磐など遺物が一括資料として注目される。

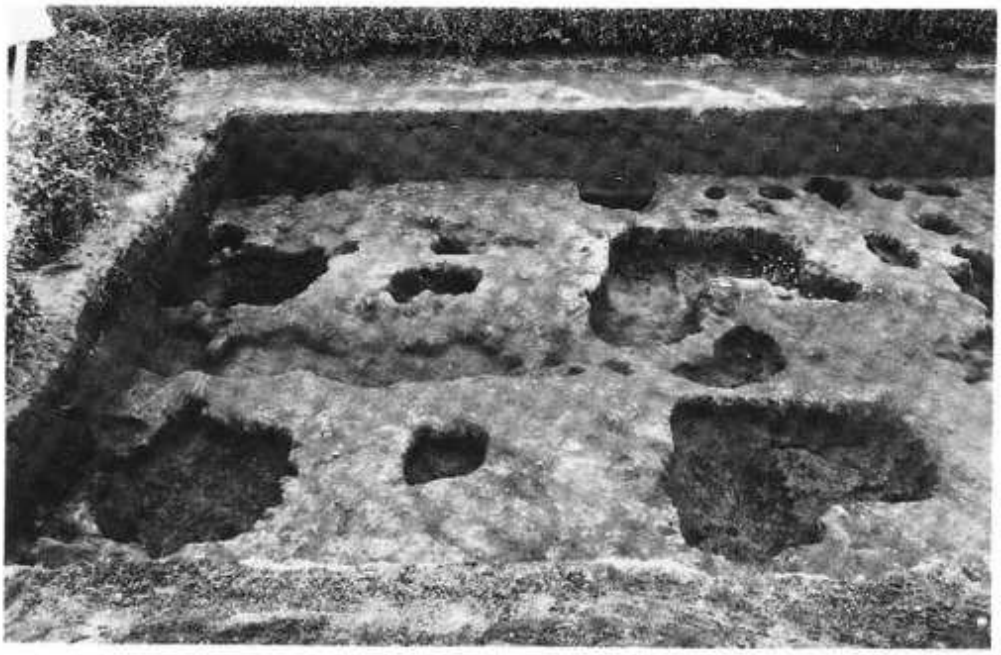
今回検出された建物（回廊？）跡、及び棚列（塀？）は東西方向に延びていく可能性が強い。東側は茶畑であるため調査は困難であるが西側の調査によって遺構の性格規模等について少しは明確にできる。また、今回検出された遺構が回廊跡等の可能性が強い場合、重要遺構群は北側に広がる可能性も考えられる。平成２年調査の寺崎遺跡（１次）でも大型の方形柱穴が検出されており今回の調査結果をふまえて十分検討する必要がある。

図版1

a～b区　調査風景

a区　遺物出土状況

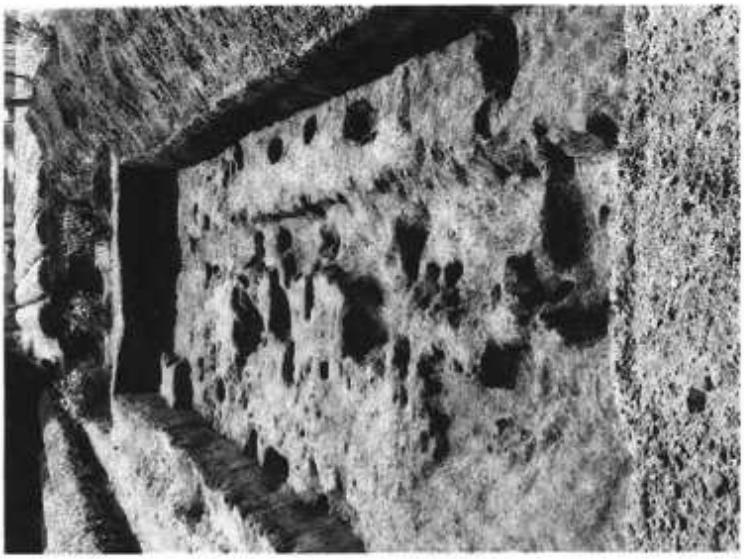
図版2

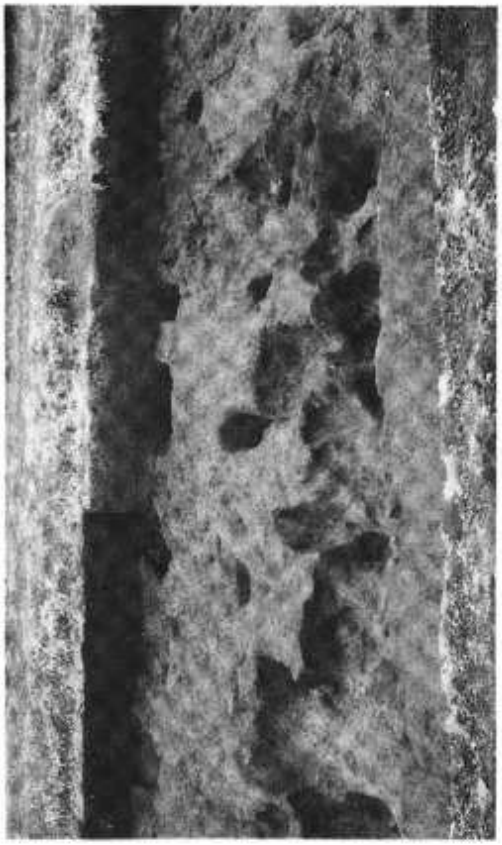


a～b区　遺構検出状況

SH6、7、8、検出状況

図版3





c～e区遺構検出状況

図版4

C区　遺物出土状況（SE2）

e区　遺物出土状況（A地点）

国衙・郡衙・古寺跡等
範囲確認調査概要報告書　III

1994年3月

発　行　宮崎県教育委員会
編　集　宮崎県教育庁文化科
〒880 宮崎市橘通東1-9-10
電話 0985(26)7251
印　刷　有限会社富士写真印刷
〒880-02 宮崎郡佐土原町
電話 0985(74)2179